

## 荒川太郎右衛門地区自然再生事業

---

### 太郎右衛門地区の自然再生方針の方向性について

平成18年1月28日

荒川上流河川事務所

## 太郎右衛門地区の自然再生方針について

### 1. 希少種等の現況把握

#### (1) 保全対象種

以下の 118 種を対象とする。(種リストは参考資料参照)

全体構想で定めた保全目標の希少種・・・67 種

新規確認希少種・・・・・・・・・・32 種 (H16、H17 確認種 + 過去の記録の発掘)

三ツ又沼エリアのみの確認希少種・・・・・・・・19 種

#### (2) 代替対策の難易度の分類

表-1 代替対策の難易度・ミティゲーションの有効性

区分	代替の難易度、ミティゲーションの有効性
A	代償ミティゲーション対策の難易度が非常に高いと予測される種 ・代償する環境要素等が極めて複雑あるいは長期間が必要と考えられる種 ・保護上の重要性が高いものの代償すべき環境要素等の情報が極めて不十分な種
B	代償ミティゲーション対策の有効性が不明であり、対策の検討が必要な種
C	代償ミティゲーション対策の有効性が一定程度認められる種 ・代償する環境要素等が比較的把握されており、短期間での定着が可能と考えられる種 ・既存の代償対策や各地のピオトープ等で移植・誘導事例の実績が認められる種 ・流水性や攪乱性の種で流水化や掘削等の環境変化に対し影響が少ないと考えられる種

#### (3) 保全目標種の分布状況

平成 14～17 年度に太郎右衛門地区(上池、中池、下池エリア)で確認された、分布地点・範囲が明らかな 84 種について代替性の難易度を整理した。次頁以下に一覧表と分布範囲図を示す。

#### ( ) ミティゲーションとは？

ミティゲーションとは、建設事業等の人為的行為に伴い自然環境への影響が予想される場合に以下の措置を講ずることにより、自然環境への影響を緩和することをいいます。

##### 回避

保全すべき自然環境のある箇所を、路線や形状の変更等によりさける手法

##### 最小化

保全すべき自然環境のある箇所への影響を、施工方法や構造を変更する等により、最小にとどめる手法

##### 代替

保全すべき自然環境が止むを得ず消失する場合に、元々の自然環境と同等のものを他の場所に設ける手法

##### 修復・再生

工事によってダメージを受けた自然環境を、植栽や表土復元等により修復・再生する手法

荒川太郎右衛門地区自然再生事業地  
近年において確認されている希少動植物に関する代償ミティゲーション対策の可能性分析

		生息・生育環境				代替性の難易度			備考
		水域		草地	樹林	A	B	C	
		止水	流水						
哺乳類	1	ホンドカヤネズミ							
	2	ホンドタヌキ							
	3	ホンドキツネ							
鳥類	1	ヨシゴイ <繁殖>						重要性が高いものの生息(繁殖)条件に関する知見が少ない	
	2	オオタカ <繁殖>						営巣地誘導対策が取り組まれているが、成功事例は極めて少ない	
	3	ツミ <繁殖>							
	4	ノスリ <越冬>							
	5	チョウゲンボウ <繁殖>							
	6	クイナ <越冬>						重要性が高いものの生息(越冬)条件に関する知見が少ない	
	7	バン <繁殖>						抽水植物を伴った1,000㎡以上の池沼の創出により繁殖可能	
	8	オオバン <繁殖>						重要性が高いものの生息(繁殖)条件に関する知見が少ない	
	9	タゲリ <越冬>							
	10	コミミズク <越冬>						重要性が高いものの生息(越冬)条件に関する知見が少ない	
	11	カワセミ <繁殖>						営巣用土崖と小魚の多い水域の創出による成功事例が増えている	
	12	ルリビタキ <越冬>							
	13	ウグイス <繁殖>							
	14	コヨシキリ <繁殖>						重要性が高いものの生息(繁殖)条件に関する知見が少ない	
	15	ベニマシコ <越冬>							
爬虫類	1	ヒバカリ							
	2	マムシ							
両生類	1	トウキョウダルマガエル							
魚類	1	キンブナ						流れのある水域に生息するため、流水化の影響は大きくない	
	2	ナマズ						流水化による水域の多様化により悪影響は予測し難い	
	3	メダカ						各地で移植・放流し、繁殖・定着事例が増えている	
	4	ウキゴリ						流れのある水域に生息するため、流水化の影響は大きくない	
	5	ジュズカケハゼ						流れのある水域に生息するため、流水化の影響は大きくない	
甲殻類	1	ヌカエビ						創出池沼への放流後、繁殖・定着実績が確認されている	
	2	モクスガニ						流水の連続性が確保されることで生息にプラスとなる	
貝類	1	モノアラガイ							
	2	ヒメモノアラガイ							
	3	カワコザラガイ							
	4	ナガオカモノアラガイ							
	5	イシガイ						水質・底質等の生息(繁殖)条件が複雑で、移植失敗例が多い	
昆虫類	1	ギンイチモンジセセリ							
	2	ジャコウアゲハ						食草(ウマノスズクサ)の適正管理による繁殖誘導が可能	
	3	ミドリシジミ							
	4	ヒオドシチョウ						生息(繁殖)に求められる環境要求等が複雑であることが明らか	
	5	コムラサキ							
	6	ネアカヨシヤンマ						生息(繁殖)に求められる環境要求等が複雑であることが明らか	
	7	アオヤンマ						生息(繁殖)に求められる環境要求等が複雑であることが明らか	
	8	クマコオロギ							
	9	スズムシ							
	10	エゾツクムシ							
	11	オナガササキリ							
	12	ショウリョウバッタモドキ							
	13	クルマバッタ							
	14	エサキアメンボ						重要性が高いものの生息(繁殖)条件に関する知見が少ない	
	15	ハネナシアメンボ							

代替性の難易度については、今後変更の可能性があります。

		生息・生育環境				代替性の難易度			備考
		水域		草地	樹林	A	B	C	
		止水	流水						
昆虫類	16	ミヤケミズムシ							
	17	トゲサシガメ							
	18	オナガカツオゾウムシ							
	19	チャイロスズメバチ							
	20	ヤマトシリアゲ							
	21	ヒサマツハチモドキハナアブ							
	22	ハチモドキハナアブ							
クモ類	1	コガネグモ							
	2	オオトリノフンダマシ							
	3	シロオビトリノフンダマシ							
植物	1	イチョウウキゴケ						重要性が高いものの生育条件等に関する知見が少ない	
	2	ミズワラビ							
	3	マツモ							
	4	ハンゲショウ							
	5	タコアシ						土壌水分・光等の生育条件が把握され、移植成功例が増えている	
	6	ナガボノシロワレモコウ							
	7	ノウルシ							
	8	ヒシ							
	9	オニビシ							
	10	ホザキノフサモ							
	11	エキサイゼリ						重要性が高いものの生育条件等に関する知見が少ない	
	12	アサザ							
	13	クマツツラ							
	14	ミソコウジュ						土壌水分・光等の生育条件が把握され、移植成功例が増えている	
	15	ゴマギ							
	16	カワランニンジン							
	17	フジバカマ							
	18	オグルマ							
	19	オナモミ							
	20	エビモ						水質・底質・光等の生育条件の整備により移植・増殖が可能	
	21	ミクリ							
	22	ウマスゲ							
	23	ヤガミスゲ							
	24	オニナルコスゲ						重要性が高いものの生育条件等に関する知見が少ない	
	25	アゼテンツキ							
計		84種	42	8	28	13	14	57	13

平成14年度(2002年)～17年度('05)に上池・中池・下池エリアで確認された種を選定  
 生息・生育環境は、止水に池沼・湿地・湿性草地の分布種も含めた  
 代替性の難易度、代償ミティゲーション(移植・誘導対策)の有効性  
 A. 代償ミティゲーション対策の難易度が非常に高いと予測される種  
 ・代償する環境要素等が極めて複雑あるいは長期間が必要と考えられる種  
 ・保護上の重要性が高いものの代償すべき環境要素等の情報が極めて不十分な種  
 B. 代償ミティゲーション対策の有効性が不明であり、対策の検討が必要な種  
 C. 代償ミティゲーション対策の有効性が一定程度認められる種や、対策の必要性が少ないと予測される種  
 ・代償する環境要素等が比較的把握されており、短期間での定着が可能と考えられる種  
 ・既存の代償対策や各地のビオトープ等で移植・誘導事例の実績が認められている種  
 ・流水性や攪乱性の種で、流水化や掘削等の環境変化に対し影響が少ないと考えられる種  
 保護上の重要性は、環境省及び埼玉県によるレッドデータブックによるカテゴリー区分に基づき判定

希少種保護のため、非公開とする。

2. 自然再生方針（案）

前回の討議結果を踏まえ、[流水 + 止水環境案]を具体化して示す。

(1)基本方針

太郎右衛門地区の環境の多様化を目的として、現況の良好な環境を保全しながら、旧流路の復元を行う。流水化及び掘削・盛土に伴う希少種の保護対策については、前項で示したように一般的な知見や先行事例から保全・代替の難易度を設定し、難易度に応じたミティゲーションを行う。

(2)ミティゲーションの方針

代償の難易度に応じて以下の方針でミティゲーションに取り組む

表-3 代替の難易度・ミティゲーションの有効性

区分	代替の難易度、ミティゲーションの有効性
A	基本方針：回避、最小化 Aランクの保全目標種の生息・生育地への築堤、掘削による直接的な影響をできる限り回避するとともに、掘削に伴う地下水位低下等の間接的な影響についても最小化を図る。
B	基本方針：回避、最小化、代替 Bランクの保全目標種の生息・生育地への影響はできるだけ回避するが、代替が可能なものについては、周辺への代替を行う。また、そのために必要な知見を得るための試験施工を行う。
C	基本方針：代替、修復・再生 Cランクの保全目標種の生息・生育地に影響が及ぶ場合は、代替、修復・再生等の措置を行う。

(3)流水 + 止水環境案の具体化

以下に流水 + 止水環境案の考え方を、次頁に整備イメージ図を示す。

表-4(1) 流水 + 止水環境案の整備内容(1)

項目	考え方、整備内容
1)基本方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・創出する流水環境は、現在の太郎右衛門地区周辺の荒川本川では消失した蛇行形状を有したものとする。</li> <li>・流水路は、旧流路の形状を可能な限り活かすものとするが、保全・代償難易度Aランクの種が存在する区間については、現況保全を図り、迂回させる。また、Bランクの種に対しても「回避」や「最小化」を図るが、代替の必要がある場合は、今後、詳細な調査を実施した上で効果的な「代償ミティゲーション対策」に取り組んでいくものとする。</li> <li>・本川の水を取り込む方法は、現況の池環境への影響を軽減するために、本川の堰上げにより行う。なお、堰上げ位置は、支川江川への影響を考慮して、太郎右衛門橋下流の分派位置とする。また、堰には魚道を設置する。</li> </ul>
2)流 量	流水環境の対象流量は、荒川本川の自流を目安として、10m³/sとする。

表-4(2) 流水 + 止水環境案の整備内容(2)

項目	考え方、整備内容
3)流水路	<ul style="list-style-type: none"> <li>・河床高は保全する池の水位低下を考慮し、池底面と同程度の高さとする。</li> <li>・上池は現況を保全し、流水路はモトクロス場跡地を通す。</li> <li>・中池、下池代替の難易度Aランクの止水性・湿地性を主とした希少種が確認されている箇所は、河跡湖状に現況を保全し、流水路は迂回させる。</li> <li>・河畔林の保全、ハンノキ更新サイトの整備等は行う。</li> <li>・Aランク及びBランクの希少種の確認が少ない池左岸側を中心に、水域環境を多様化させるため湿地等の止水環境を創出する。</li> <li>・三ツ又沼ビオトープ内は掘削を行わない。また、隣接地の切下げにあたっては、三ツ又沼の地盤高や地下水位を考慮して掘削高さを設定する。</li> <li>・下池の下流側の隣接地に、水域環境を多様化させるため池を創出する。</li> </ul>
4)流水環境化に伴う効果等	<p>流水環境化により、増加すると考えられる本川に生息・生育する種                  ウナギ・ウグイ・アブラハヤ・オイカワ・ニゴイ・カマツカ・モクスガニ・ハグロトンボ等                  多様な水域環境創出により繁殖場や休息・隠れ場等として利用することで、さらに定着・増加すると予想される種                  ウナギ・コイ・キンブナ・ギンブナ・ニゴイ・カマツカ・メダカ・シマドジョウ・ナマズ・ウキゴリ・ジュズカケハゼ・ハグロトンボ等の水生動物及び、ホザキノフサモ・エビモ・ナガエミクリ等の水生植物                  流水路周辺へのワンドや湿地等の創出により定着・増加すると考えられる種                  ドジョウ・メダカ・ナマズ・ジュズカケハゼ・ヌマチチブ・イシガイ・クロイトトンボ等の水生動物および、マツモ・エビモ・ヒシ・マコモ・ミクリ・ミズアオイ・ヨシ等の水生植物</p> <p>■：希少種(レッドデータブック環境省版・埼玉県版掲載種)</p>
5)その他	池環境への影響を考慮した河床高による流水路を設定すると、流水路末端と荒川本川との間には、4~5m程度の落差が生じる。魚道、多段式落差工、迂回水路等を設け、魚類の移動に支障がない対策を講じる。

希少種保護のため、非公開とする。

#### (4)ミティゲーションの実施方針

旧流路以外の場所も含め、掘削や築堤等の改変に伴う環境への影響については、影響の「回避」をまず優先する（Aランク該当種）が、それが避けられない場合（B，Cランク該当種）は、今後詳細な調査を実施した上で効果的な「代償ミティゲーション対策」に取り組んでいくものとする。

1)試験施工を行い、対策手法及びその有効性を確認した上で本工事を実施する。

2)試験施工候補地（案）

三ツ又沼ビオトープ隣接地

旧モトクロス場

3)実施手順

代替対象種の選定

代替対象種の生息・生育条件の調査（一般的知見と現場での生息・生育条件）

試験施工計画の立案

試験施工の実施

モニタリング

評価及びフィードバック

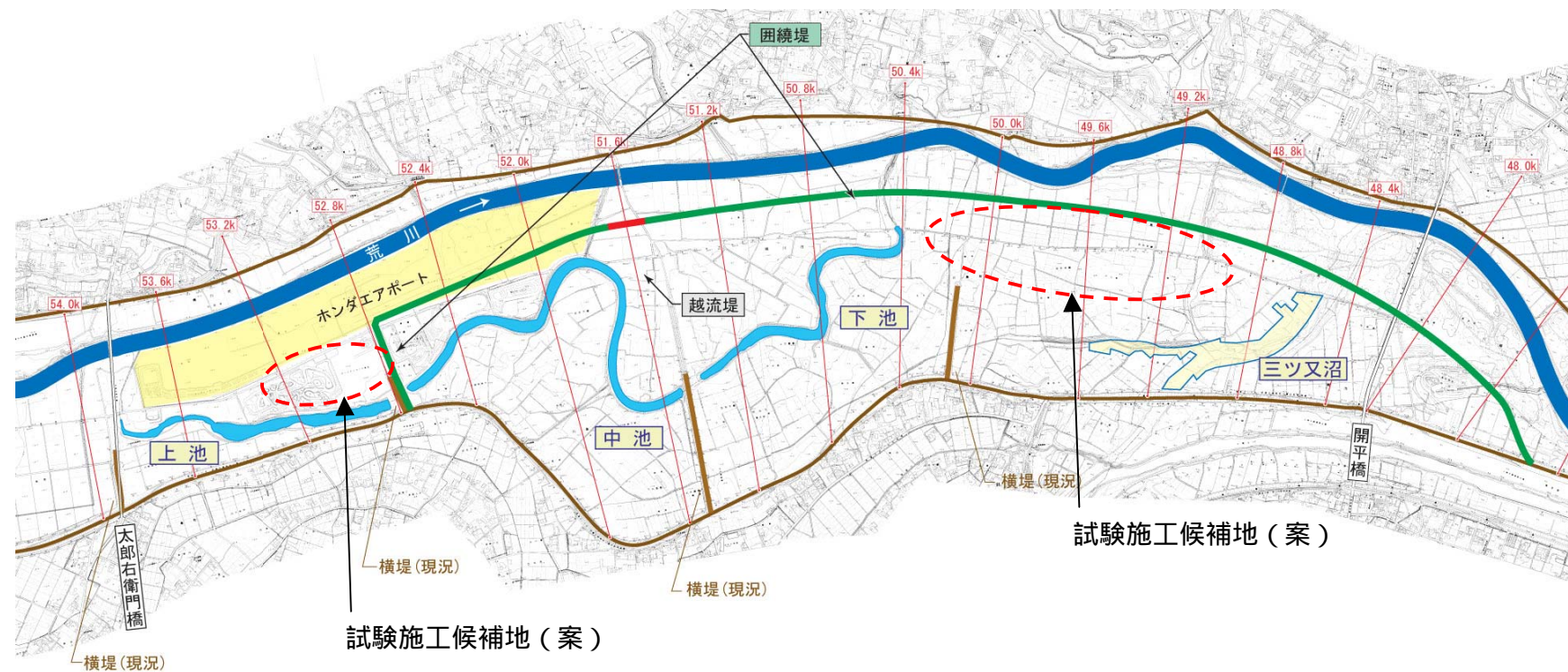


図-3 試験施工候補地（案）位置図

## 参 考 资 料



## 参考資料

前回の討議時に示した第1案、第2案とを合わせて次々頁以下にイメージ図を示す。

表-5 自然再生方針の比較案

案	考え方
第1案：止水環境案 (掘削なし)	現況の池や湿地環境の保全を目的とした当初の自然再生方針に、囲繞堤、排水門、越流堤を設ける案
第2案：止水環境案 (掘削あり)	第1案に加え、築堤に必要な土砂を調節池内を掘削することにより確保する案。
第3案：流水+止水環境案 (掘削あり)	太郎右衛門地区の環境の多様化を目的に、旧流路の復元と現況の自然環境保全を中心とした案 ・流水環境化による瀬と淵を有した多様な水域環境の創出 ・氾濫原の復元 ・湿地環境の拡大による湿生生物等の生息環境の確保 ただし、太郎右衛門地区の希少種等の存在状況を考慮する。

### 各案の整備内容

第1案 止水環境案(掘削なし)整備イメージ図

第2案 止水環境案(掘削あり)整備イメージ図

第3案 流水+止水環境案(掘削あり)整備イメージ図、横断イメージ図、縦断イメージ図

比較表

希少動植物の確認状況

自然再生目標

各案の整備内容

整備案	整備内容
第1案：止水環境案 (掘削なし)	(1)基本方針：自然再生全体構想に示した第 期、第 期の整備を行う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・上池：上池の掘削、エコトーンの新創、旧モトクロス場の湿地化</li> <li>・中池：河畔林の保全、湿地帯の造成（現存する希少種等の分布状況を考慮して整備を行う。必要に応じて代替等の措置を図る）</li> <li>・下池：ハンノキ更新サイトの整備、ハンノキ林の保全再生、湿地の造成（ハンノキ林の保全・再生エリアにAランクの種が生息するため、整備にあたっては、範囲等の設定に留意する必要がある。） 下池下流部の嵩上げ（下池のAランク種存在区間への水位変動による影響を考慮して整備を行う。）</li> </ul>
第2案：止水環境案 (掘削あり)	(1)基本方針：上記、第1案の整備（囲繞堤、自然再生整備内容）に加え、築堤土量確保のため、掘削を行い、湿地等を創出する。掘削深さは、保全する各池の水位や三ツ又沼ピオトープへの影響を考慮し、現況の地下水位程度を目安とする。
第3案： 流水＋止水環境案 (掘削あり)	(1)基本方針 <ul style="list-style-type: none"> <li>・創出する流水環境は、現在の太郎右衛門地区周辺の荒川本川で消失した蛇行形状を有したものとす。</li> <li>・流水路は、旧流路の形状を可能な限り活かすものとするが、保全・代償難易度Aランクの種が存在する区間については、現況保全を図り、迂回させる。また、Bランクの種に対しても「回避」や「最小化」を図るが、代替の必要がある場合は、今後、詳細な調査を実施した上で効果的な「代償ミティゲーション対策」に取り組んでいくものとする。</li> <li>・本川の水を取り込む方法は、現況の池環境への影響を軽減するために、本川の堰上げにより行う。なお、堰上げ位置は、支川江川への影響を考慮して、太郎右衛門橋下流の分派位置とする。また、堰には魚道を設置する。</li> </ul> (2)流 量 流水環境の対象流量は、荒川本川の自流を目安として、10m <sup>3</sup> /sとする。 (3)流水路の形状 1)縦断形状：現況の各池の河床高や本川の計画河床勾配を考慮して設定する。(1=1/2,500程度)河床高は保全する池の水位低下を考慮し、池の底面と同程度の高さとする。 2)横断形状：流水路の断面が旧川に包含される箇所は、河岸部を保全し、池中央で断面を確保する。流水路の断面が旧川と同程度以上の場所では、両側の河岸を比較し、希少種等の生育状況を確認した上で、一方の河岸を活かして、他方へ拡幅する。 (右ページへ続く)

整備案	整備内容
第3案： 流水＋止水環境案 (掘削あり)	3)平面線形及び自然再生整備内容 <ul style="list-style-type: none"> <li>・上池は現況を保全し、流水路はモトクロス場跡地を通す。</li> <li>・中池と囲繞堤が競合する箇所は、囲繞堤線形を本川側へ移動し、中池の現況平面線形を活かして流水環境とする。</li> <li>・中池、下池代替の難易度Aランクの希少種が確認されている箇所は、<u>河跡湖状に現況を保全し、流水路は迂回させる。</u></li> <li>・河畔林の保全、ハンノキ更新サイトの整備等を行う。(同エリアにおいてもAランク種が確認されているため、それらに留意する必要がある。)</li> <li>・Aランク及びBランクの希少種が確認されていない池左岸側を中心に湿地等の止水環境を創出する。</li> <li>・三ツ又沼ピオトープ内は掘削を行わない。また、隣接地の切下げにあたっては、三ツ又沼の地盤高や地下水位を考慮して掘削高さを設定する。</li> <li>・下池の下流側の隣接地に池を創出する。</li> </ul> (4)流水環境化に伴う効果等 1)流水環境化により、増加すると考えられる本川に生息・生育する種 ウナギ・ウグイ・アブラハヤ・オイカワ・ニゴイ・カマツカ・モクズガニ・ハグロトンボ等 2)多様な水域環境創出により繁殖場や休息・隠れ場等として利用することで、さらに定着・増加すると予想される種 ウナギ・コイ・キンブナ・ギンブナ・ニゴイ・カマツカ・メダカ・シマドジョウ・ナマズ・ウキゴリ・ジュズカケハゼ・ハグロトンボ等の水生動物及び、ホザキノフサモ・エビモ・ナガエミクリ等の水生植物 3)流水路周辺へのワンドや湿地等の創出により定着・増加すると考えられる種 ドジョウ・メダカ・ナマズ・ジュズカケハゼ・ヌマチチブ・イシガイ・クロイトトンボ等の水生動物および、マツモ・エビモ・ヒシ・マコモ・ミクリ・ミズアオイ・ヨシ等の水生植物 ■■■■■：希少種(レッドデータブック環境省版・埼玉県版掲載種) (5)その他 池環境への影響を考慮して流水路を設定すると、流水路末端と荒川本川との間には、4～5m程度の落差が生じる。魚道、多段式落差工、迂回水路等を設け、魚類の移動に支障がないようにする。

次頁以下に各案の整備イメージ図を示す

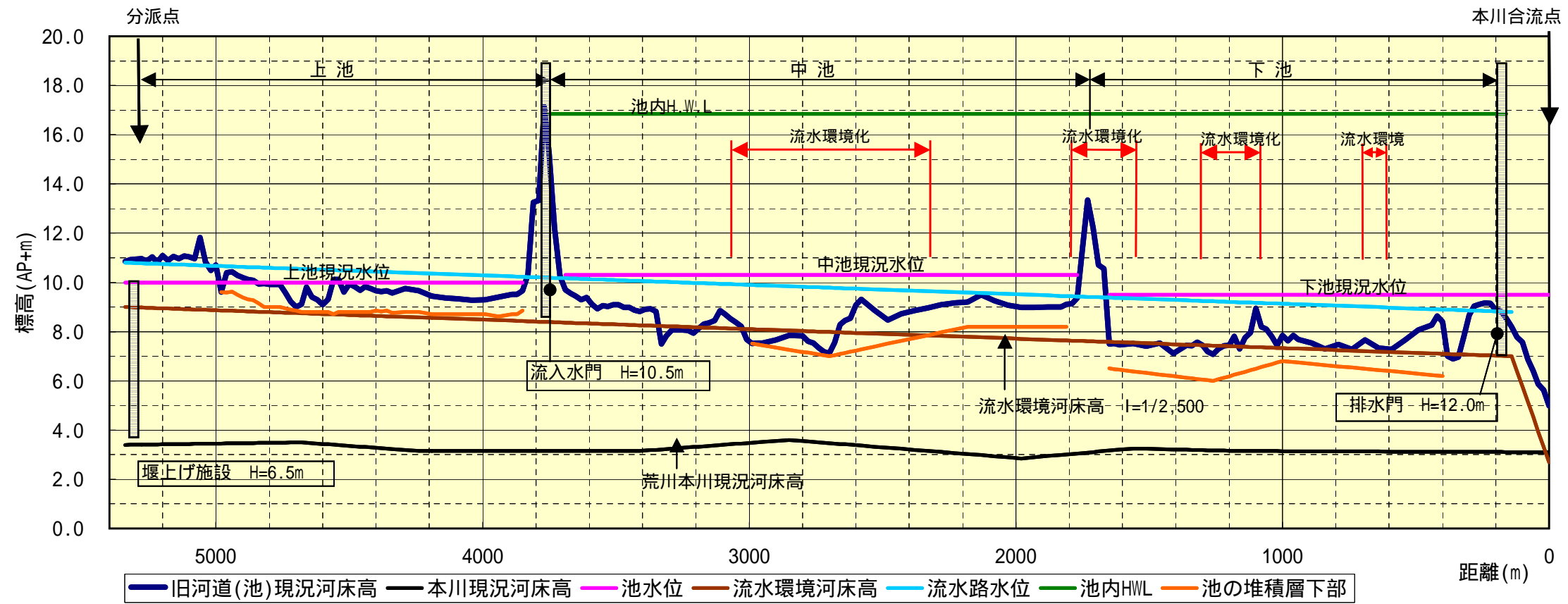
希少種保護のため、非公開とする。

希少種保護のため、非公開とする。

希少種保護のため、非公開とする。

希少種保護のため、非公開とする。

参考資料：流水 + 止水環境案の縦断面図



流水環境の縦断面形状は一様勾配とはせずに、現況の旧川の河床高等を考慮して設定する。







止水環境と流水 + 止水環境との比較

青字：長所  
赤字：短所  
黒字：優劣なし

項目	止水環境案（従来案：掘削なし）	止水環境案（掘削あり）	流水 + 止水環境案（掘削あり）
必要な治水施設	囲繞堤、周囲堤、越流堤(位置 51.6k)、排水門(位置 47.6k)	囲繞堤、周囲堤、越流堤(位置 51.6k)、排水門(位置 47.6k)	囲繞堤、周囲堤、越流堤(位置 51.6k)、排水門(位置 50.4k)、流入水門(位置 52.8k)、本川の堰上げ施設(位置 53.6k)
環境面からみた一般的な長所、短所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・抽水植物、沈水植物、浮葉植物等の水生植物が生育しやすい。</li> <li>・コイ、フナ、モツゴ類等、止水環境を好む水生動物の生息環境となる。</li> <li>・富栄養化が生じやすい等、水質の維持が課題となる。</li> <li>・ブラックバスやブルーギル等の止水域を好む害魚が生息しやすい。</li> <li>・乾燥化が年々進み、池・湿地の陸地化が進行する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・抽水植物、沈水植物、浮葉植物等の水生植物が生育しやすい。</li> <li>・コイ、フナ、モツゴ類等、止水環境を好む水生動物の生息環境となる。</li> <li>・富栄養化が生じやすい等、水質の維持が課題となる。</li> <li>・ブラックバスやブルーギル等の止水域を好む害魚が生息しやすい。</li> <li>・乾燥化が年々進み、池・湿地の陸地化が進行する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・抽水植物、沈水植物、浮葉植物等が生育しやすい止水環境が一時減少する。また、コイ、フナ、モツゴ類等、止水環境を好む水生動物の生息環境が一時減少する。</li> <li>・早瀬、淵等の多様な環境が形成されることにより、魚類や底生動物の種数及び個体数の増加が期待できる。</li> <li>・中小洪水で攪乱が生じるため、河川らしい氾濫源環境が維持・再生される。</li> <li>・変化に富んだ河川景観の形成が期待できる。</li> </ul>
池の保全	上池	現況の上池 1,030m を保全できる 乾燥化が進行しているため、水の確保が課題となる	現況の上池 1,030m を保全できる 乾燥化が進行しているため、水の確保が課題となる
	中池	現況 1,960m を保全できる	現況 1,960m を保全できる
	下池	現況 1,330m を保全できる	現況 1,330m を保全できる
湿地	旧モトクロス場等、当初の整備メニューから約 20 万㎡の湿地が創出される。	旧モトクロス場、池の左岸側、三ツ又沼隣接地等から約 130 万㎡の湿地が創出される	旧モトクロス場、池の左岸側、三ツ又沼隣接地等から約 110 万㎡の湿地が創出される
止水環境	-	-	約 15 万㎡の水面が新たに創出される。
流水環境	・必要であれば、将来的に 3 つの池を連続し、市野川からの導水を行うことで、流水環境の創出は可能であるが、その場合、止水環境が減少する。	・必要であれば、将来的に 3 つの池を連続し、市野川からの導水を行うことで、流水環境の創出は可能であるが、その場合、止水環境が減少する。	・従前の計画では期待できなかった水位変動を伴い、湛水頻度の高まりが期待できる流水環境が約 5km にわたって新たに創出される。 ・堰上げ施設及び流水路末端と荒川本川合流部には、水生動物の移動が可能となる魚道等の対策が必要となる。
樹林地	・中池周辺の河畔林をはじめ、対象地区の樹木群の保全は容易である。 ・ハンノキ林若齢樹の保全・再生にあたっては、乾燥化を防ぐため地盤の切下げ等の対策を要する。	・中池周辺の河畔林をはじめ、対象地区の樹木群の保全は容易である。 ・ハンノキ林若齢樹の保全・再生にあたっては、乾燥化を防ぐため地盤の切下げ等の対策を要する。	・中池周辺の河畔林をはじめ、対象地区の樹木群の保全は容易である。 ・ハンノキ林若齢樹の保全・再生にあたっては、乾燥化を防ぐため地盤の切下げ等の対策を要する。
水田、耕作地	・水田は一時的水域として水生生物の生息環境となりうるが、現状では水域の連続性が確保されていないため、連続性確保のための整備が必要である。	・池周辺の掘削により水田面積は減少するが、水域との連続性を有した一時的水域としての機能はワンド等として新たに創出することは可能である。	・池周辺の掘削により、水田面積は減少するが、水田が有する一時的水域としての機能は、多様な地形の創出と水位変動に伴う攪乱により、流水路周辺のワンドや池に維持されることが期待できる。
水量	・上池においては、雨水の集水、掘削等の施策を通じて水を確保することとなっているが、成果をモニタリングしながら、水量が少なければ他の施策の必要性を検討する必要がある。	・上池においては、雨水の集水、掘削等の施策を通じて水を確保することとなっているが、成果をモニタリングしながら、水量が少なければ他の施策の必要性を検討する必要がある。	・本川の水を引き込むことにより、十分な水量を確保できる。
水質	・現状では、中池、下池とも荒川本川や三ツ又沼に比べて水質が悪いため、水循環に配慮し、水質を改善する必要がある。	・現状では、中池、下池とも荒川本川や三ツ又沼に比べて水質が悪いため、水循環に配慮し、水質を改善する必要がある。	・流水環境内は、水質上は大きな問題はない。 ・保全する池は、現状では、中池、下池とも荒川本川や三ツ又沼に比べて水質が悪いため、水循環に配慮し、水質を改善する必要がある。
地下水位	・ハンノキ更新サイト等は、現況の地下水位を考慮した掘削であるため、影響はほとんどないと考えられる。	・土砂確保及び湿地創出のための掘削は、現況の地下水位を考慮しているため、影響はほとんどないと考えられる。	・流水環境は、現況の池の底高程度の敷高であるため、池水位への影響はほとんどないと考えられる。

止水環境案（従来案）と流水＋止水環境案における自然再生目標の比較

青字：当初目標からの変更箇所

自然再生目標（全体構想より抜粋）		流水＋止水環境案
項目	従来案	
1. 現状の湿地環境の保全	太郎右衛門自然再生地固有の多様な生き物を保全し、かつ、それらが生育・生息できる湿地環境を保全する。 < 近年確認されている希少種 67 種が生息可能な自然環境を保全 >	1. 湿地環境の保全・再生 現状の希少種等の分布状況を踏まえた上で、止水環境の保全・創出、湿地環境の拡大を図るとともに、樹林地や草原等の現況の自然環境をバランスよく保全する。これにより、当該区域の固有かつ多様な氾濫原の生物の保全・再生を目指すものとする。
2. 過去に確認された生物が住める環境の再生	過去に確認された当該区域の固有かつ多様な生き物が住めるような環境の再生を目指すものとする。 < かつて確認されたが、近年確認されていない希少種 6 種の再生 >	2. 過去に確認された生物が住める環境の再生 過去に確認された当該区域の固有かつ多様な生き物が住めるような環境の再生を目指すものとする。  (従前通り)
3. 荒川エコロジカルネットワーク	荒川太郎右衛門自然再生地は周辺地域も含めたエコロジカルネットワークの核となる区域と位置付けるものとする。	3. 荒川エコロジカルネットワーク 荒川太郎右衛門自然再生地は周辺地域も含めたエコロジカルネットワークの核となる区域と位置付けるものとする。  (従前通り)
4. 多様な水深の開放水面の拡大	湿地環境を保全・再生するにあたっては、荒川本川水、雨水、湧水等の自然な水を用い、多様な水深の開放水面を拡大するものとする。 < 昭和 20 年代以上の開放水面を段階的に確保 >	4. 多様な水深の開放水面の拡大 豊富な荒川本川の水を有効に活用するとともに様々な地形を保全・創出することにより、湿地、止水環境、流水環境等、多様な水深を有した広大な開放水面を確保するものとする。
5. 蛇行形状の保全	約 70 年前の蛇行形状が今なお変わらず残る、歴史的に貴重な荒川旧流路を保全し、後世に伝えるものとする。	5. 蛇行河川の復元 歴史的に貴重な荒川旧流路を流水路として復元し、後世に伝えるものとする。
6. 治水面からもプラス	将来にわたり治水の面からもプラスとなるような自然再生事業とする。	6. 治水計画との整合 第四調節池計画と一体となった自然再生事業を行い、洪水調節の機能を持たせるとともに、掘削土は囲繞堤等の築堤へ有効活用する。